

## 稲作部会総会



JA筑紫稲作部会は4月11日、2022年度JA筑紫稲作部会通常総会を開きました。部会員と福岡普及指導センター、JA職員ら20名が参加。22年度事業報告や、23年度の事業計画・収支計画など全6議案が承認されました。

23年度は、水稻栽培に関する現地研修会、販売促進活動やスマート農業研修会を積極的に行い、活動をさらに活発化させていくことを確認しました。

## 丈夫で健康な水稻育苗へ



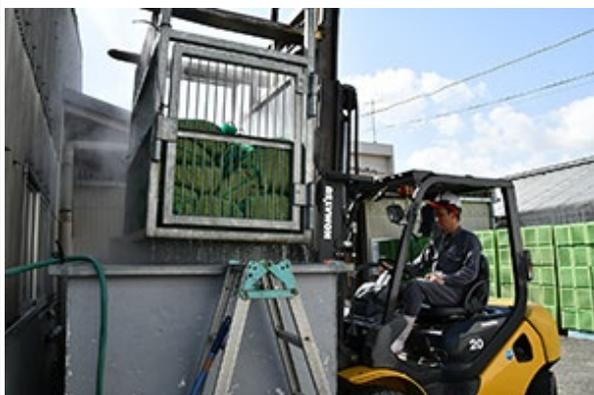
JA筑紫と㈱JAアグリサポート筑紫は4月11日、JA本店の育苗センターで、2023年度水稻播種（はしゅ）式を行いました。

水稻播種式は丈夫で健康な水稻苗の育苗と作業の安全を祈る目的で毎年開かれています。品種は、「夢つくし」「元気つくし」「ヒノヒカリ」。今年度はおよそ5万3千箱を播種し、出荷する予定です。

温湯消毒後、5日程度浸種し、催芽させた種子を播いて、発芽室で3日間、緑化室で3～4日間管理。その後、17～25日間の育苗期間を経て、農家に届けます。

白水清博組合長は「今年も丁寧に苗の管理を行い、組合員に喜ばれるよう一丸となって頑張ってください」と話しました。

## 温湯消毒



JA筑紫関連会社(株)JAアグリサポート筑紫は、5月28日まで2023年産水稻種子の温湯消毒を、JA筑紫本店横の育苗センターで行いました。約1万6000箱分の水稻種子を温湯消毒し、組合員の作業負担の軽減や、農薬の使用を削減します。

温湯消毒は、水稻種子を袋詰めし、60度の湯に10分間浸します。薬品を使わずに、いもち病、ばか苗病、苗立枯細菌病などの病気から種子を守る効果があります。

処理を終え消毒された種子は各生産農家が持ち帰り、4月中旬から6月上旬にかけて播種を行う予定です。

## ブロックリー部会が総会



JA筑紫ブロックリー部会は4月18日、第44回JA筑紫ブロックリー部会通常総会を開きました。部会員や福岡普及指導センター、JA職員ら25名が参加。2022年度活動報告や、23年度の活動計画・予算など全5議案が承認されました。

今年度も作付面積の拡大と新規作付者の加入推進、市場出荷を主に地産地消にも取り組み、作付面積16ha以上、販売目標1592万円以上を目指します。

## 高品質な麦の生産へ



JA筑紫麦出荷者部会は28日、筑紫野市のJA本店で、第13回JA筑紫麦出荷者部会通常総会を開きました。部会員と福岡普及指導センター、行政関係者、JA職員ら33名が参加。総会では2022年度JA筑紫麦出荷者部会共励会の表彰式を開き、はだか麦の部（4畝以上・未満）と小麦の部（4畝以上・未満）で、各優秀賞・優良賞計8名を表彰しました。

佐伯繁久部会長は、「23年産も収穫まで管理を徹底し、生産者と消費者が共に喜ぶ安全安心で高品質な麦作りに励みたいです」と話しました。

同部会の22年産麦は、はだか麦が1等Cランク、小麦は1等Aランク。23年産は、はだか麦「イチバンボシ」約165ha、小麦「チクゴイズミ」約166haを作付し、順調な生育です。

受賞者は次の通りです。

◇はだか麦の部（4畝以上）

▽優秀賞＝篠原辰雄 ▽優良賞＝田中修一

◇はだか麦の部（4畝未満）

▽優秀賞＝鬼木利章 ▽優良賞＝山内久頼

◇小麦の部（4畝以上）

▽優秀賞＝農事組合法人 西小田 ▽優良賞＝篠原辰雄

◇小麦の部（4畝未満）

▽優秀賞＝金子明 ▽優良賞＝山田智之

（敬称略）

## 生タケノコの集荷



JA筑紫は、3月下旬から4月下旬まで、筑紫野市JA本店で生タケノコの集荷を行いました。総集荷量は約40tと昨年より約13tの増加となりました。集荷は管内の中山間地の活性化や竹林整備を目的に取り組み、今年で14年目。

タケノコは、近年「国産」の需要が高まっているため、研修会や座談会などで出荷を組合員に呼び掛けています。

集荷されたタケノコは、大・中・小・外・穂先の規格別に分けられ、加工業者に出荷されます。